

## 「澤田監督官からのメッセージ」

私はサラリーマン家庭で育ち、公務員と身近に触れ合う機会がなかったので、当初は、「公務員はお堅くて事務的でつまらなそう」というマイナスのイメージしか持っていました。

しかし、労働基準監督官の仕事内容を知った時に、「警察官と営業マンを掛け合わせたような、他とは一味違う公務員」という印象を受け、志望しました。

労働基準監督官は、労働関係法令に基づき、労働者の労働条件・安全・健康の確保を図ることを任務としています。

労働基準監督署には、毎日のように労働者から賃金未払・解雇・長時間労働等の労働相談や内部告発が寄せられます。

それらの情報を参考にしながら、私たち労働基準監督官は、臨検監督（企業や建設現場への立入調査）を実施します。

臨検監督は原則抜き打ちで行い、タイムカードや賃金台帳等を調べ上げて賃金不払残業（いわゆるサービス残業）を摘発したり、労災事故に繋がる危険な現場では作業停止を命令したりして法違反を取り締まります。その時には、「コンプライアンス（法令順守）」「安全」という目に見えない商品を売り込むことを欠かさず、以後の再発防止を呼び掛けて回っています。

また、労働基準監督官は司法警察員としての顔も持ち合わせており、重大・悪質な法違反を犯した事業主らに対しては、検察庁への送検手続をとっています。捜査中は、被災者の血痕が残る労働災害現場での実況見分、会社や社長宅の搜索差押、被疑者に対する取り調べ等、まるで刑事ドラマ出てくるようなシーンを体感することになります。



労働基準監督官には、知的好奇心が旺盛で、人と話すのが苦にならない方が向いていると思います。

時には、自分の親世代の事業主を説得したり、喜怒哀楽をあらわにする労働者を落ち着かせて法違反の指摘に必要な判断材料を聞き出したりしなければなりません。労働基準監督官は、自らの職権で法違反の指摘を行うため、常に中立公正な立場を守り、責任感や咄嗟の判断力も求められます。

私は、この仕事に就いたおかげで、労働基準法等の法律の知識は勿論のこと、各業界の置か

れた経済情勢や人の心理を読む力、そして何より度胸が身に付いたように思います。

特に駆け出しの数年間は、覚えなければならない事が山ほどあって大変でしたが、頼りになる上司先輩に恵まれ、中央研修で苦楽を共にした全国の同期監督官が支えてくれました。

これから就職活動を控えておられる学生さん、民間経験を生かした転職組の方へ。私たちは、みなさんの若くて前向きな力を求めていきます。労働基準監督官の仕事に関心を持たれた方は、ぜひ採用試験に挑戦してください！

澤田 好伸（さわだ よしのぶ）

平成16年労働基準監督官任官。

長崎労働局を経て奈良労働局勤務。

令和4年4月より桜井労働基準監督署 監督・安衛課長。